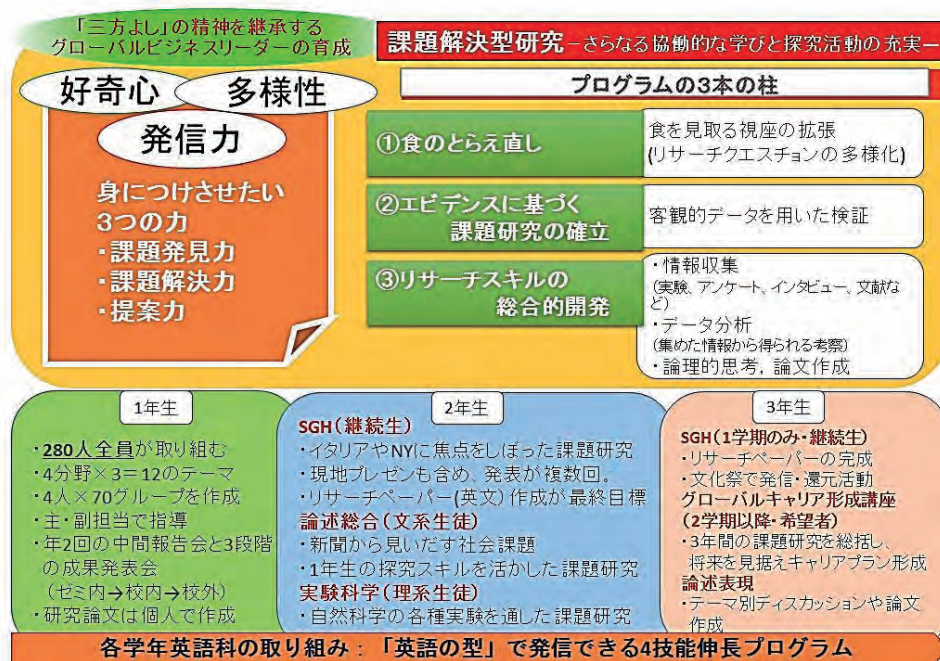


兵庫県立伊丹高等学校

『三方よし』の精神を継承する GBL（グローバルビジネスリーダー）の育成プログラム開発

【構想の概要】

「三方よし」の互惠の精神をもって世界の人々と交渉し、日本の強みを発信するグローバルビジネスリーダーを育成する。「三方よし」の精神を受け継いだ合理的で経理に明るい生活文化が伊丹にはある。食との関わりの深い地元のグローバル企業との連携を生かして「食」の分野で課題研究を進め、グローバルビジネスリーダーに欠かせない「好奇心」「多様性を受容する力」「発信力」を育成するプログラムを開発する。「食と健康」をテーマに、生活文化や経済に関する調査を、企業や大学、国際交流姉妹校との連携を通して深め、調査過程でビジネスチャンスを見だし、アイデアを具現化して「英語の型」で発信する力を高める。伊丹とNYと台中での「おいしく食べて健康になる新しい食」の提案をもって成果発表の機会とし、普通科のキャリア教育の新たな手法を結実させた「日本再発見—この国の「食」の強みを発信する」プログラムを完成させる。



教育課程表(H31年度)																																		
																															必修科目			
第1学年(第74回生)																																		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
科目	国語総合					現代社会			数学I		数学A		物理基礎		生物基礎		体育		保健		音楽I 美術I 書道I		コミュニケーション英語I		英語表現I		家庭基礎		総合探究		LHR			
第2学年(第73回生)																																		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
人文 社会 類型	現代文B		古典B		世界史A		日本史B※		数学II				選択		化学基礎/ 地学基礎		体育		保健		コミュニケーション英語II		英語表現II		実践 英語I		社会と情報		総合 学習		LHR			
自然 科学 類型	現代文B		古典B		地理B		数学II		数学B		化学基礎		化学		物理※ 生物※		体育		保健		コミュニケーション英語II		英語表現II		情報の科学		総合 学習		LHR					
選択：国語表現、数学B、生物※、総合音楽、ビジュアルデザイン、総合書道、総合英語、ライフデザイン																																		
第3学年(第72回生)																																		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
人文 社会 類型 I	現代文B		古典B		日本史B※		世界史B※		選択A		選択B		選択C		選択D		選択E		選択F		選択G		体育		コミュニケーション英語III		英語表現III		総合 学習		LHR			
人文 社会 類型 II	現代文B		古典B		日本史B※		世界史B※		政治・経済		人文数学 研究α		人文数学 研究β		選択H		選択I		選択J		選択K		体育		コミュニケーション英語III		英語表現III		総合 学習		LHR			
自然 科学 類型	現代文B		古典B		地理B		世界史A		数学III				化学		物理※ 生物※		体育		コミュニケーション英語III		英語表現III		総合 学習		LHR									

SGH プログラム内容

本校 SGH は 1 年生全員が参加し、週 1 回の総合的な探究の時間で取り組む。2 年生以降は継続生（台湾 FW 参加者+チャレンジ生）が取り組む。原則、教員全員が総合を担当し、1 年生ではグループ研究（4 人× 70 グループ）、2 年生以降は複数担当制で個人研究の指導にあたる。

(1) 1 年生の取り組み

課題研究について学びながら、グループでテーマ設定を行い活動を進めていく。3 学期には個人で研究論文を作成し、1 年生の課題研究は完了する。

(2) 2 年生の取り組み

1 年生の 3 月頃から 2 年生での課題研究について活動をスタートする。対象地域（イタリア・ニューヨーク）に焦点を絞り、1 年生で学んだ課題研究のメソッドを活かしつつ研究を進める。3 学期にはリサーチペーパー（英文）を作成する。

(3) 3 年生の取り組み

リサーチペーパーを完成させるとともに、文化祭を利用して活動の発信・還元を行う。2 学期以降は大学や将来を見据えて大学進学後の研究を計画したり探究活動の総括を行ったり大学進学後の計画をするグローバルキャリア形成講座（希望者）を開講する。

(4) 「英語の型」による発信ができる 4 技能伸長プログラム

これは各学年の英語科が行っているプログラムである。定期考査にリスニングやエッセイテストを出題するだけでなく、授業内にインタビューテストやエッセイテスト、パフォーマンステストを組み入れることでアウトプットの機会を全員に与えている。外部検定（GTEC）を年 2 回受けることで成果の検証を行っている。

課題研究の工夫

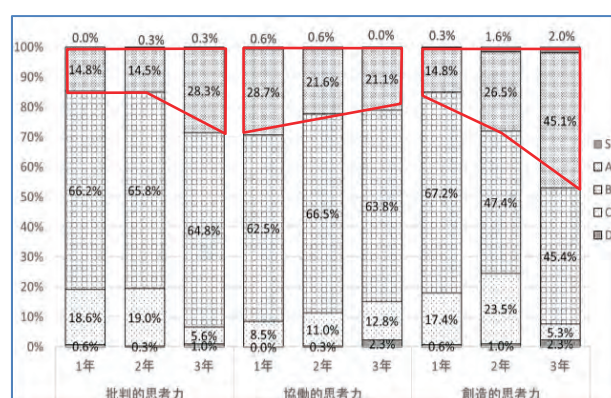
グループでの活動は成果を上げている点が多いが、グループによっては成員間の温度差による人間関係の不調や活動の停滞が生まれる。テーマ設定の際には、キーワードの関心度評価を行い、全員の関心の高いテーマになるようにしている。また、複数の担当者が関わられるように教員を配置する。評価ルーブリックを用いることで担当者間のプレを無くし、活

動ごとに生徒へのフィードバックを行う方式を定着させた。これにより、多くの教員の参画する体制が整った。

総合的な学習（探究）の時間以外の結びつきとして、職員研修で意識を向上させ、研究授業を設定し、教科への波及を促す。

成果とそのエビデンス、来年度以降について

取り組みの成果を測るために行っていることは 4 点。①評価ルーブリックによる評価の数値化、②意識調査や SGH アンケートによるプログラムの検証、③ GPS - Academic による思考力の判定、④英語外部検定による 4 技能の測定。以下は昨年度の資料である。



グラフ SGH 2 期生 3 つの思考力の総合評価
(赤枠は S・A レベルの部分)

表 各回生の 1 年生と 3 年生の CEFR レベルの比較(人)

	卒業年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	現3年生	現2年生
	CEFR レベル	—	—	—	SGH 1期生	SGH 2期生	SGH 3期生	SGH 4期生
1 年 初回	B1以上	0	0	0	1	0	4	0
	A2	11	16	41	52	26	280	154
	A1以下	309	303	279	262	294	34	165
3 年	B1以上	4	1	2	42	15	—	—
	A2	198	150	187	199	151	—	—
	A1以下	107	160	119	19	27	—	—

批判的思考力や創造的思考力、また CEFR レベルの伸びが確認できる。

今後は、確立してきたプログラムを継続していく。探究手法を教科の授業に波及させていくことが課題だ。海外 FW は国際交流事業として継続していく。